



第 1 回小笠原村ゼロカーボン推進地域会議 説明資料

2024年7月2日

1.小笠原村ゼロカーボン推進地域会議について

本会議開催の背景

地球温暖化対策実行計画の策定

小笠原村は今年3月に温室効果ガスの排出量削減等を推進するための総合的な計画である「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）～スイッチおがさわライフ ゼロカーボン大作戦～」を策定しました。

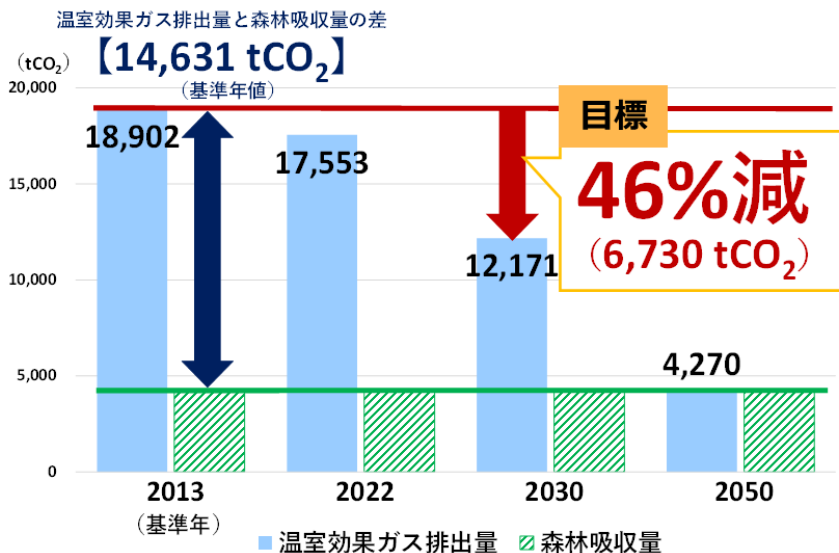


計画書44p

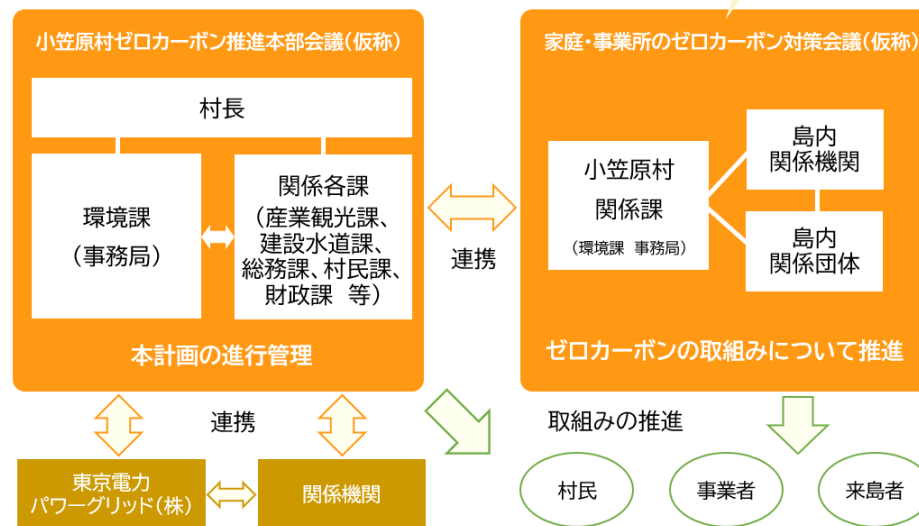
削減目標

2030年に基準年比（2013年度比）**46%削減**
 長期的には2050年までに**CO₂排出量実質ゼロ**

計画書27p



計画の推進体制



「小笠原村ゼロカーボン推進地域会議」

- 約6年後となる2030年までに2013年比の46%の温室効果ガス排出量の削減を目指しています。
- 本会議は、家庭や事業所をはじめとした村民のゼロカーボン活動の推進を行うために、島内の様々な主体の皆さまにご参加いただく会議体として計画書に位置付けられたものです。

⇒会議については…【参考資料2 開催要項 参照】

令和6年度のスケジュール

	2024年												2025年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
ゼロカーボン 推進 地域会議				本日 第1回 (7/2) ごみ処理の 現状と課題					第2回 (11月頃予定) 分別ガイドブック案の確認 次年度に向けて						
小笠原村で の 新しい取組	容器包装プラ 拠点回収開始 (母島) 製品プラステーション 回収開始 (父島)			コンテナ拠点回収開始 (父島) 製品プラステーション 回収開始 (母島)			省エネ勉強会 & 生ごみコンポストWS								
ごみ分別 ガイドブック の作成				ガイドブック案の作成					修正				完成		

- 会議は年2回を予定しています。
- 10月に村民向けの省エネ勉強会 & 生ごみコンポストワークショップを予定しています。
- 新しく資源回収の機会を増やしたことから、これらの変更を含めたごみ分別ガイドブックの作成を行います。

2.報告事項

(1) ごみ処理の現状

①ごみ処理の将来像 (地球温暖化対策実行計画 (区域施策編) より)

作戦4 ごみも資源だ脱炭素

計画書7p

計画書38p

2050年の姿

図書館の本には、2023年度までにリサイクル率50%を目標にしていたけど、2021年度は31.4%で、なかなか達成できなかったって書いてあったよ。ごみを減らすことって難しいんだね。



そうだね。そこで、なんとかしようよ、みんなでごみの処理や分別、回収の方法を見直したんだ。最初は面倒だと感じる人もいたけれど、ごみも分別すれば資源になることをきちんと伝えることで、今では、すべての村民が丁寧に分別・リサイクルを実践しているんだ。自然と無駄な買い物も減ったね。



今では当たり前なのに、私たちが生まれる前は違ったんだね。そういえば、この間、お父さんと一緒に近所のおばあさんのお家のごみの片付けをお手伝いしたよ。



実は、ごみの分別・回収ルールを変えたことで、一番驚いた変化は、まさにその地域での助け合いなんだ。ごみを運ぶときの助け合いなんかが、子どもからお年寄りまで、村民同士の交流にもつながっているんだ。それに、今では生ごみはコンポストを使ったりして、島内で処理されているけれど、2023年頃は、父島の生ごみはまだ燃料を使って燃やしていたんだよね。

そうなんだ！生ごみって水分が多いから燃やすのが大変そうだね。



こうした取組みを通して、村の人々のモノの買い方や使い方、暮らしの価値観がどんどん変化して行って、ごみも資源だという考え方は、島で暮らす人々にとって、当たり前のことになったんだ。こうやって振り返ってみると、本当に変化があったね。

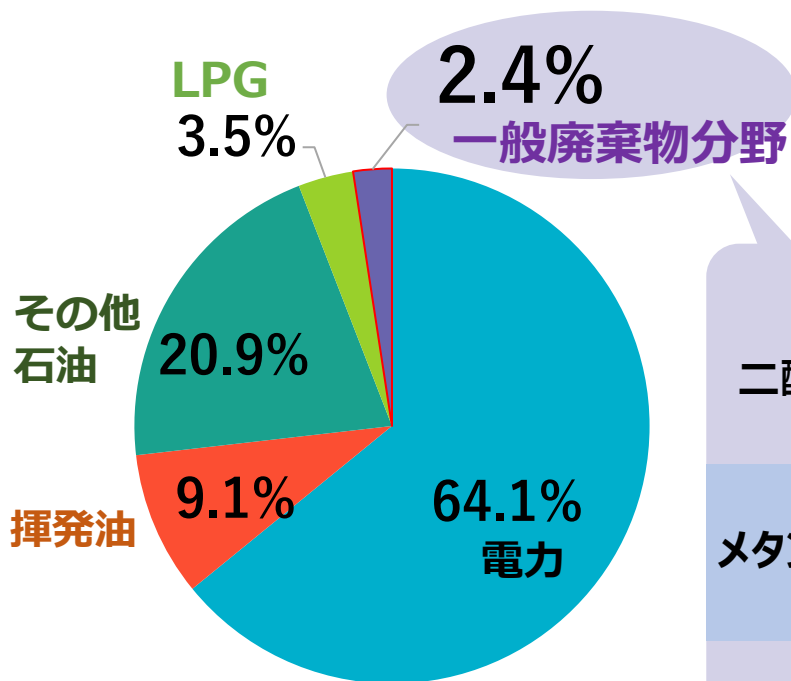
◆作戦による温室効果ガス削減量見込み

取組み	温室効果ガス削減量 (tCO ₂)	具体例(参考値)		
		取組み内容	取組み数	削減量
①ごみの減量化	69.94	使い捨てプラスチックの利用を減らす	2,600人	13tCO ₂
		ホビー製品や家具等を修理や補修して長く使う	260人	57tCO ₂
②プラスチック等の資源循環	10.40	資源ごみの分別を行う	2,600人	10tCO ₂
③生ごみ回収の推進	16.20	自宅にコンポストを設置するなど、生ごみを分別して可燃ごみにしない	900世帯	16tCO ₂
④伐採木等の有効活用に関する情報収集	-	-	-	-
合計	96.54	-	-	-

- 計画書にはCO₂排出量実質ゼロを目指すための6つの作戦があり、そのうち作戦4は、ごみの減量化・資源化等を目指す内容です。
- 2050年の将来像として、皆で協力してごみの削減や資源化を進める姿を描いています。
- 2030年に向けた温室効果ガス削減見込みとしては、ごみ削減、資源ごみの分別などの小さなことを皆で取り組むこととしています。

(1) ごみ処理の現状

②ごみによる温室効果ガス排出量



温室効果ガス排出量の推計結果(2022年度)

ごみ処理によって生じた温室効果ガス排出量は約425tCO₂で、全体の排出量のうち約2.4%を占めています。(2022年度値)
ごみ処理による温室効果ガス排出量は下の要素をもとに算定されており、焼却ごみの量・プラごみ率・ごみの含水率・助燃に使うA重油の量によって推計されます。

$$\text{焼却による二酸化炭素の排出} = \frac{\text{焼却プラスチックごみの乾燥重量}}{\text{(焼却ごみ量, プラごみ量\%, 焼却ごみの含水量\%)}} \times \text{CO2排出係数}$$

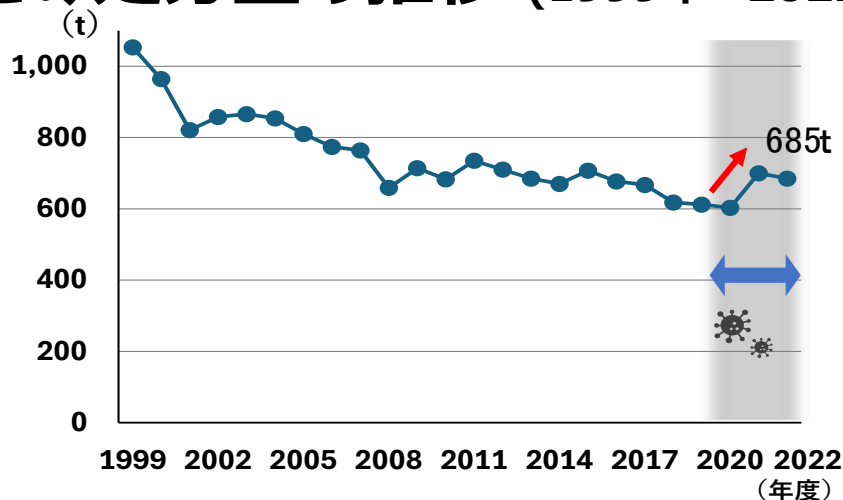
$$\text{焼却によるメタン・一酸化二窒素の排出} = \text{一般廃棄物焼却量} \times \text{CO2排出係数} \times \text{地球温暖化係数}$$

$$\text{焼却用いるA重油の排出} = \text{燃やす際に用いたA重油使用量} \times \text{CO2排出係数}$$

- ごみに関連した温室効果ガス排出量はわずかではありますが、2030年の目標に向けては少しでも減らす取組を進めていく必要があります。
- ごみによる温室効果ガス排出量を減らすためには・・・「焼却ごみの量を減らすこと」「プラスチックごみ量およびごみの水分量（≒生ごみ量）を減らすこと」が必要です。

(1) ごみ処理の現状

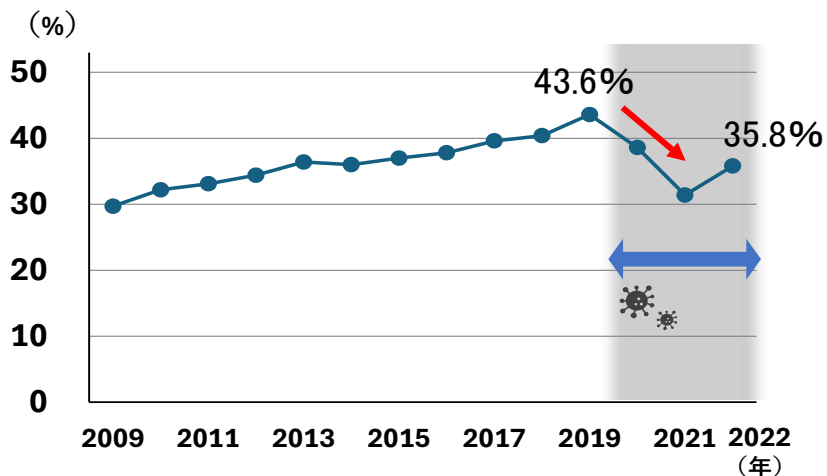
③ ごみ処分量の推移 (1999年～2022年,父島クリーンセンター年間処理量)



小笠原村の2022年度のごみ処理量は685tで長期的な推移ではごみの減量化がみられます。

ただし、2020年からはごみ処理量が増加しました。これは、コロナ禍のステイホーム期間に行われた家の片付けによって一時的にごみの量が多くなったためと考えられます。

④ リサイクル率の推移 (2009年～2022年)



小笠原村の2022年度のリサイクル率35.8%で長期的な推移ではリサイクル率の向上がみられます。

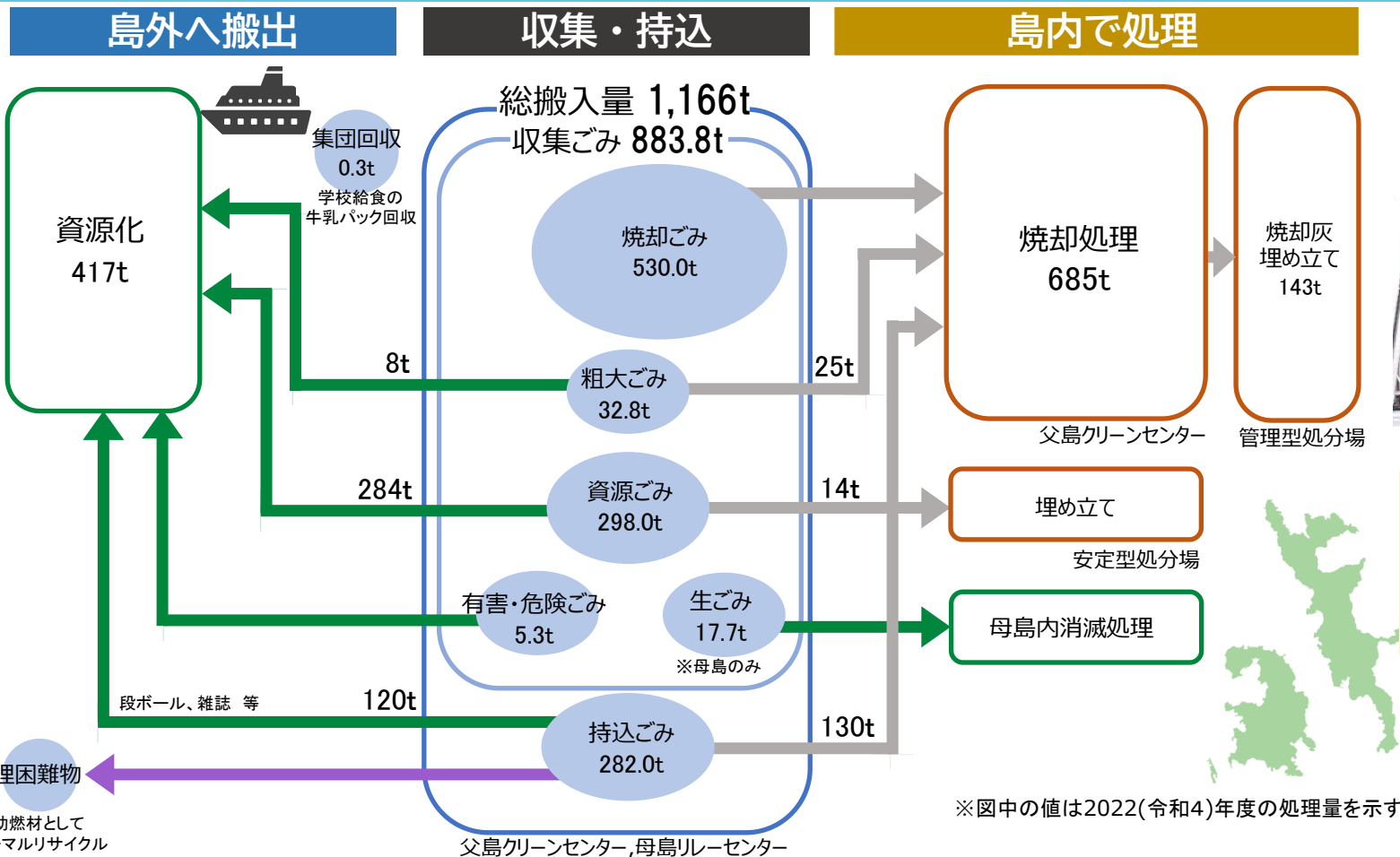
ただし、ごみ処分量と同様にコロナ禍のステイホーム中の片付けの影響でリサイクルできない大きなごみの持込が多くなり、2020年からはリサイクル率が低下しています。

また、小笠原諸島振興開発計画では2028年度の**成果目標としてリサイクル率50%**を掲げています。

● コロナ後、ごみ処分量（焼却処理）は増加、リサイクル率は減少しています。

(1) ごみ処理の現状

⑤ごみのゆくえ



クリーンセンター焼却炉
 供用開始：1999年
 (処理能力：4.6t/8時間)
 約25年使用している状態であり、
 現在、炉の更新に向けて検討中

- 【島内に溜まっていくごみ】・焼却処理しても約2割は灰として最終処分場に蓄積されていきます。
 ・陶器、割れガラス等も安定型処分場に蓄積されていきます。
- 【島内から出ていくごみ】 資源化できるものは本土へ輸送されます。
 ➡村の環境を考えても、ごみを減らして、リサイクルできるものはした方がよいと考えられます。
- 焼却ごみ量が減少すると、焼却炉の将来的な規模縮小が見込まれます。

【参考】ごみ処理の体制

リサイクル率を向上させるためには、正しい分別、リサイクル品目の増加が有効です。しかし、小笠原村のごみ処理体制においては、人手が限られるという課題があり、作業負担が大きくなる、新たなリサイクル品目の追加は難しい状況です。そこで、**分別ルールを守った正しい分別**を行うことが重要です。

リサイクルを妨げる出し方

「雨の日は段ボールを出さない」

→段ボールが濡れてしまうと、資源化ごみとして取り扱えない



「空き缶・空きびんの中に ごみ等を入れて出さない」

→缶やびんの中にたばこの吸い殻等のごみが入ったままだと資源化ごみとして取り扱えない



人手が必要となってしまう出し方

「回収日・回収品目を間違えない」

→回収日以外にごみを出したり、回収品目ではないものが混ざっている場合、ごみ処理現場の負担の増加やリサイクル量の低下に繋がります。

(右写真) 硬質プラスチック回収時に硬質プラスチックではないもの(容器包装プラなど)が多く混入していました。これらは人の手で仕分けをしています。

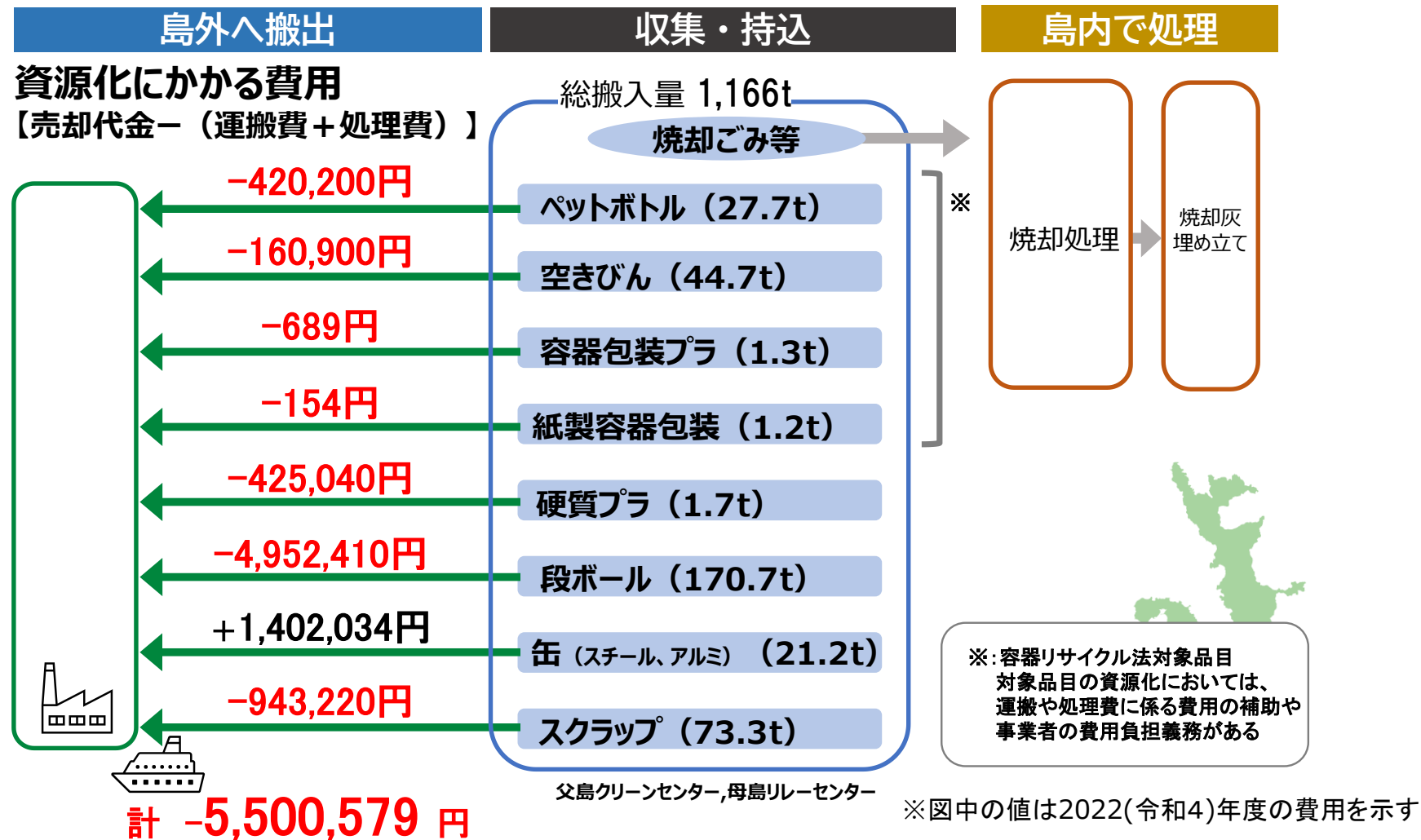
新しい制度導入時は、特に出し方などに誤りが多くなる傾向があります。



硬質プラスチック回収に混入した対象外のごみの写真(父島)

- 分別ルールが守られていないと資源化が妨げられてしまうケースもあります。
- 限られた人員の中で資源化を進めるためには、ごみ出しルールを守っていただくことも重要です。

【参考】ごみ処理・資源化にかかる費用



- リサイクルの費用全体としては赤字ですが、リサイクル法によって負担は大きく軽減されています。
- 環境への負荷軽減と人手と資金のバランスを見て、出来る限りリサイクルを推進していく必要があります。

(1) ごみ処理の現状 ～まとめ～

ごみ処理における課題 (まとめ)

課題解決の方向性

コロナ禍の影響で焼却ごみ増加

コロナ禍の影響でリサイクル率低下

ごみ処理の現場における人手不足

リサイクルに多くの費用がかかる

①ごみの減量

②資源化の推進

③ゴミ出しルールの啓発

+ 窓口での村民の声

出し方が分からない

なるべくリサイクルに
協力したい

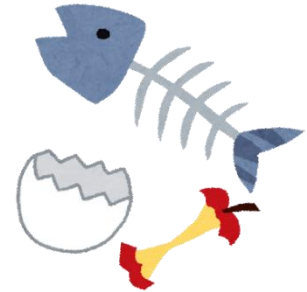


(2) 令和6年度の新しい取組

①ごみの減量

●家庭用生ごみコンポスト（父島）

ごみの減量に向けて、父島で家庭用生ごみコンポストのモニター募集の試行を検討します。生ごみコンポストWS（10月開催予定）を開催する予定です。



②資源化の推進

●資源回収機会の充実

R6.4月～

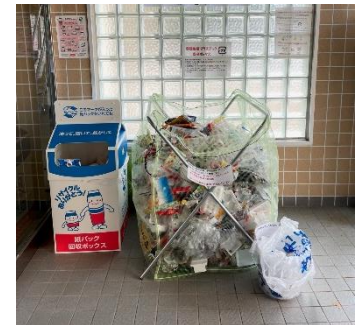
硬質プラのステーション回収（父島） 容器包装プラ拠点回収（母島）

R6.7月～

資源リサイクル拠点回収（父島） 硬質プラのステーション回収（母島）



資源リサイクル拠点回収コンテナ（父島）



容器包装プラ拠点回収（母島）

③ゴミ出しルールの啓発

●ごみ分別ガイドブックの作成（A4 12頁程度）

村民の皆さま向けにより詳細なごみ分別ガイドブックを作成します。本会議やクリーンセンター等関係者の意見を取り入れたガイドブック案を作成し、第2回会議で内容を確認いただく予定です。

(2) 令和6年度の新しい取組



ごみ分別ガイドブック構成（案） 12頁

<p>1 p 表紙 【父母別】</p> <p>ごみカレンダー</p>	<p>2 p ごみコラム 【共通】</p> <p>→資源化の重要性など伝える内容</p>	<p>3 p ごみ分別一覧 【父母別】</p>	<p>4 p St回収分別解説 【共通】</p> <p>①焼却ごみ ②金属ごみ ③粗大ごみ</p>
<p>5 p St回収分別解説 【共通】</p> <p>④飲料缶 ⑤ビン・ペット ⑥有害・危険物</p>	<p>6 p St回収分別解説 【父母別】</p> <p>⑦製品プラ (⑧生ごみ 母島) 【よくある質問の解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PC,バッテリー ・長もの(棒・サーフボード)等 	<p>7 p 拠点回収解説 【父母別】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資源回収コンテナの使い方(父島) ○その他の拠点案内 <ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ役場St ・PTA回収、あゆみの店など(母島は支所の拠点の紹介) 	<p>8 p その他 【父母別】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 家電リサイクル手順の紹介 (2) 草木(減容試験場)手順と場所案内 (3) 自動車・バイク手順の紹介 (4) 事業系ごみ
<p>9p 分別早見表1/4 【共通】</p>	<p>10p 分別早見表2/4 【共通】</p>	<p>11p 分別早見表3/4 【共通】</p>	<p>12p 分別早見表4/4 【共通】</p>

3.意見交換

3. 意見交換

普段、ごみの排出や資源化についての取組や気になっていることなども含めて…

①ごみの減量

- 家庭用生ごみコンポスト（父島）

1. 「どうすればごみを減らせるか」
ごみの排出量を減らす、
ごみを資源とするためにできること

②資源化の推進

- 資源回収
（ステーション回収・拠点回収）

③ゴミ出しルールの啓発

- ごみ分別ガイドガイドブックの作成

2. 「現行のごみ分別で分かりにくい・不便と感じるところ」

①②③について、3. 「発展的なアイデア」
（こんな取り組みが広がるとよいのでは…）